Ⅱ 調査結果

1．長期入院患者の概要

1）長期入院患者の属性

長期入院患者の構成は，男性2,863人（43.9％），女性3,560人（54.6％），無回答94人（1.4％）であった。平均年齢は，68.9歳（男性65.4歳，女性71.6歳）で，年齢区分別では，「15歳未満」126名（1.9％），「15歳以上65歳未満」1,866名（28.6％），「65歳以上75歳未満」1,645名（25.2％），「75歳以上」2,866名（44.0％）であった。65歳以上の患者でほぼ7割を占めていた（**表3**）。

また，65歳以上の患者の「同居者」の状況は，「65歳以上の同居者のみ」18.9％，「同居者なし」17.3％であった（**表4**）。

2） 入院期間

「入院期間」は，「3か月目」1,179人（18.1％），「4か月目」965人（14.8％），「5か月目」626人（9.6％），「6か月以上1年未満」1,637人（25.1％），「1年以上」2,062人（31.6％），無回答48人（0.7％）で，半数以上が6か月以上入院患者であった

表3　長期入院患者　（％）

		0～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答	計
全　体	男	67人 (1.0)	1,028人 (15.8)	818人 (12.6)	948人 (14.5)	4人 (0.1)	2.865人 (44.0)
	女	58 (0.9)	817 (12.5)	808 (12.4)	1,873 (28.7)	2 (0.0)	3,558 (54.6)
	無回答	1 (0.0)	21 (0.3)	19 (0.3)	45 (0.7)	8 (0.1)	94 (1.4)
	計	126 (1.9)	1,866 (28.6)	1,645 (25.2)	2.866 (44.0)	14 (0.2)	6,517 (100.0)
処置なし	男	22 (1.4)	273 (16.9)	154 (9.5)	187 (11.5)	0 (0.0)	636 (39.3)
	女	19 (1.2)	213 (13.1)	210 (13.0)	511 (31.5)	0 (0.0)	953 (58.8)
	無回答	0 (0.0)	7 (0.4)	5 (0.3)	15 (0.9)	4 (0.2)	31 (1.9)
	計	41 (2.5)	493 (30.4)	369 (22.8)	713 (44.0)	4 (0.2)	1,620 (100.0)
在宅療養可能	男	25 (0.8)	472 (14.5)	399 (12.3)	452 (13.9)	0 (0.0)	1,348 (41.4)
	女	17 (0.5)	368 (11.3)	426 (13.1)	1,046 (32.2)	2 (0.1)	1,859 (57.1)
	無回答	0 (0.0)	10 (0.3)	10 (0.3)	23 (0.7)	3 (0.1)	46 (1.4)
	計	42 (1.3)	850 (26.1)	835 (25.7)	1,521 (46.8)	5 (0.2)	3,253 (100.0)

表4　65歳以上の患者の同居者

(%)

		65歳以下の同居者あり	65歳以上の同居者のみ	同居者なし	無回答	計
全　体	65～74歳	830人 (50.5)	391人 (23.8)	276人 (16.8)	148人 (9.0)	1,645人 (100.0)
	75歳以上	1,630 (56.9)	462 (16.1)	503 (17.6)	271 (9.5)	2,866 (100.0)
	計	2,460 (54.5)	853 (18.9)	779 (17.3)	419 (9.3)	4,511 (100.0)
処置なし	65～74歳	175 (21.1)	79 (20.2)	81 (29.3)	34 (23.0)	369 (22.4)
	75歳以上	380 (23.3)	106 (22.9)	139 (27.6)	88 (32.5)	713 (24.9)
	計	555 (22.6)	185 (21.7)	220 (28.2)	122 (29.1)	1,082 (24.0)
在宅療養可能	65～74歳	461 (55.5)	207 (52.9)	111 (40.2)	56 (37.8)	835 (50.8)
	75歳以上	938 (57.5)	223 (48.3)	221 (43.9)	139 (51.3)	1,521 (53.1)
	計	1,399 (56.9)	430 (50.4)	332 (42.6)	195 (46.5)	2,356 (52.2)

＊「全体」の割合は，各年齢区分の総数に対するもの。
＊「処置なし」と「在宅療養可能」の割合は，年齢区分と「同居者」別に見た同一群の全体数に対するもの。

（表5）。

3）主な診断名

現在の「主な診断名」（上位3位までの複数回答）は表6－1の通りである。脳血管疾患が2,524人（38.7%）と最も多く，ついでガン1,126人（17.3%），呼吸器疾患1,110人（17.0%）となっている。また，年齢区分別の「主な診断名」は表6－2の通りである。

記入された診断名数は，単独が3,133人（48.1%）で，半数の患者の診断名は単独であった。

4）状　態

患者の「状態」（複数回答）は，「要全介助」2,461人，「要半介助」1,973人，「自立」1,368人，「その他」15人，無回答58人に加えて，「遅延性意識障害（植物状態）」509人，「ターミナル」499人であった。「遅延性意識障害（植物状態）」と「要全介助」が2,794人と全体の42.9%を占め，長期入院患者の4割以上が，看護ケアに多くの人手を必要とする患者であった（表7）。

5）主な処置

現在行われている「処置」（複数回答）は，患者1人当たり1.41種類にとどまった。患者1人に対する「処置」数は最高9種類で，「処置」別件数は，それぞれ1件2,512人（38.5%），2件1,221人（18.7%），3件675人（10.4%），4件319人（4.9%），5件114人（1.7%），6件40人（0.6%），7件13人（0.2%），8件2人（0.03%），9件1人（0.02%）であった。また，全患者の4人に1人にあたる1,620人（24.9%）には，何も「処置」が行われてはいなかった*4。

現在，行われている主な「処置」は表8の通りで，「点滴・注射」「留置膀胱カテーテル装着・導尿」「経管経腸栄養」などが多かった。

表5　入院期間

(%)

		3か月目	4か月目	5か月目	6か月以上1年未満	1年以上	無回答	計
全　体	0～14歳	8人 (0.1)	15人 (0.2)	13人 (0.2)	42人 (0.6)	48人 (0.7)	0人 (0.0)	126人 (1.9)
	15～64歳	387 (5.9)	293 (4.5)	177 (2.7)	416 (6.4)	582 (8.9)	11 (0.2)	1,866 (28.6)
	65～74歳	325 (5.0)	247 (3.8)	175 (2.7)	414 (6.4)	472 (7.2)	12 (0.2)	1,645 (25.2)
	75歳以上	456 (7.0)	409 (6.3)	258 (4.0)	763 (11.7)	957 (14.7)	23 (0.4)	2,866 (44.0)
	不　明	3 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.0)	2 (0.0)	14 (0.2)
	計	1,179 (18.1)	965 (14.8)	626 (9.6)	1,637 (25.1)	2,062 (31.6)	48 (0.7)	6,517 (100.0)
処置なし	0～14歳	4 (0.2)	7 (0.4)	2 (0.1)	9 (0.6)	19 (1.2)	0 (0.0)	41 (2.5)
	15～64歳	89 (5.5)	79 (4.9)	40 (2.5)	88 (5.4)	194 (12.0)	3 (0.2)	493 (30.4)
	65～74歳	78 (4.8)	69 (4.3)	35 (2.2)	91 (5.6)	93 (5.7)	3 (0.2)	369 (22.8)
	75歳以上	99 (6.1)	101 (6.2)	59 (3.6)	189 (11.7)	259 (16.0)	6 (0.4)	713 (44.0)
	不　明	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	4 (0.2)
	計	271 (16.7)	256 (15.8)	136 (8.4)	378 (23.3)	566 (34.9)	13 (0.8)	1,620 (100.0)
在宅療養可能	0～14歳	2 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.1)	19 (0.6)	14 (0.4)	0 (0.0)	42 (1.3)
	15～64歳	183 (5.6)	161 (4.9)	78 (2.4)	210 (6.5)	213 (6.5)	5 (0.2)	850 (26.1)
	65～74歳	178 (5.5)	123 (3.8)	95 (2.9)	205 (6.3)	228 (7.0)	6 (0.2)	835 (25.7)
	75歳以上	272 (8.4)	226 (6.9)	130 (4.0)	412 (12.7)	465 (14.3)	16 (0.5)	1,521 (46.8)
	不　明	3 (0.1)	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.2)
	計	638 (19.6)	515 (15.8)	306 (9.4)	847 (26.0)	920 (28.3)	27 (0.8)	3,253 (100.0)

6）現時点での入院理由

「現時点での入院理由」は，「医学的管理の継続が必要」2,688人（41.2％），「身体的リハビリテーションが必要」809人（12.4％）といった何らかの医学的管理の必要な者が半数以上を占めた。

しかし，これを年齢別に見ると，「医学的管理の継続が必要」である患者の割合は，年齢区分が上昇するに従って減少し，「患者本人が希望」「家族が希望」「通院が困難」といった「社会的入院」が逆に増加していた。特に，65歳以上患者の17.9％は「社会的入院」であった（表9）。

＊4　調査設計当初は，「リハビリテーション」を「処置」の選択肢としてあげておらず，調査票回収後に「その他」から項目を立てた。そのため，「処置がない」とされた1,620人の中にも，リハビリテーションを実施している患者が含まれていると考えられる。

表6-1　主な診断名

(%)

主な診断名	第一診断名	第二診断名	第三診断名	計	処置なし	在宅療養可能
1 脳血管疾患	2,019	415	90	2,524 (38.7)	685 (27.1)	1,318 (52.2)
2 ガン	1,005	97	24	1,126 (17.3)	142 (12.6)	439 (39.0)
3 呼吸器疾患	576	429	105	1,110 (17.0)	137 (12.3)	519 (46.8)
4 心疾患	326	420	141	887 (13.6)	237 (26.7)	471 (53.1)
5 骨折・人工関節など	572	165	63	800 (12.3)	267 (33.4)	482 (60.3)
6 糖尿病	218	366	98	682 (10.5)	133 (19.5)	360 (52.8)
7 感染症	68	314	255	637 (9.8)	44 (6.9)	258 (40.5)
8 腎疾患	383	185	62	630 (9.7)	80 (12.7)	286 (45.4)
9 痴呆	66	239	154	459 (7.0)	143 (31.2)	222 (48.4)
10 肝・膵・胆のう疾患	161	151	60	372 (5.7)	64 (17.2)	213 (57.3)
その他	1,062	999	574	1,788 (27.4)	478 (26.7)	853 (47.7)
計	6,456	3,323	1,236	11,015	2,410 (21.9)	5,421 (49.2)

＊「計」の割合は，全患者6,517人に対するもの。
＊「処置なし」「在宅療養可能」の割合は，各診断名の合計件数に対するもの。

7）　在宅療養の可能性

「上記の主な医療処置が，訪問看護で対応できれば在宅療養が可能かどうか」と担当看護職員に聞いたところ，「可能である」と判断された患者は3,253人（49.9%）とほぼ半数に達した（表10）。

2.「処置」のない長期入院患者

「処置」が行われていない1,620人のうち，女性は953名（58.8%）で，中でも「75歳以上」の後期高齢者が511人（31.5%）を占めた（表3）。「主な診断名」では，「脳血管疾患」が685人（42.3%）と最も多いが，同一診断名の全患者に対する「処置」がない者の割合では，「骨折・人工関節など」33.4%，「痴呆」31.2%などとなっている（表6-1）。

「処置」が行われていない患者の「状態」（複数回答）では，「要半介助」(38.8%）や「自立」(31.6%）が多く，よりADLの高い患者であることが想像できる（表7）。

「処置」の有無別に「現時点での入院理由」を見ると，「処置」がある者の半数は，「医学的管理の継続が必要」な患者であった。その一方で，「処置」がない者の入院理由は，「転院待ち」「在宅へ移行調整中」や「ほかに受け入れる病院や施設がない」などであった。「処置」が行われていない患者は，一般病棟における治療が必要な者であるというより，在宅へ向けての療養が必要な者といえそうである。また，「処置」がない者のうち，「在宅療養が可能である」とされた者は1,014人（70.3%）であり，より可能である者の割合が高かった。

3.「在宅療養が可能」とされた長期入院患者

「主な医療処置が，訪問看護で対応できれば在宅療養が可能」な患者3,253人とは，女性が1,859人（57.1%）と男性に比べてやや多く，その中でも1,046人（32.2%）が「75歳以上」の後期高齢者であった（表3）。「主な診断名」では，「脳血

表6-2　年齢区分別主な診断名

(%)

0～14歳の主な診断名	計	65～74歳の主な診断名	計
1 呼吸器疾患	46 (27.4)	1 脳血管疾患	677 (24.2)
2 重症心身障害	42 (25.0)	2 ガン	290 (10.4)
3 ガン	22 (13.1)	3 呼吸器疾患	286 (10.2)
4 心疾患	9 (5.4)	4 糖尿病	210 (7.5)
5 骨折・人工関節など	8 (4.8)	5 心疾患	186 (6.6)
6 未熟児・染色体異常を含む先天性疾患	6 (3.6)	6 腎疾患	182 (6.5)
7 消化器疾患	6 (3.6)	7 骨折・人工関節など	176 (6.3)
8 腎疾患	5 (3.0)	8 感染症	173 (6.2)
9 血液疾患，免疫疾患	5 (3.0)	9 肝・膵・胆のう疾患	106 (3.8)
10 心因性疾患	4 (2.4)	10 神経難病	90 (3.2)
その他	15 (8.9)	その他	424 (15.1)
計	168 (100.0)	計	2,800 (100.0)
15～64歳の主な診断名	**計**	**75歳以上の主な診断名**	**計**
1 脳血管疾患	498 (17.7)	1 脳血管疾患	1,341 (25.7)
2 ガン	411 (14.6)	2 心疾患	591 (11.3)
3 骨折・人工関節など	225 (8.0)	3 呼吸器疾患	581 (11.1)
4 糖尿病	212 (7.5)	4 ガン	402 (7.7)
5 呼吸器疾患	196 (7.0)	5 骨折・人工関節など	387 (7.4)
6 腎疾患	182 (6.5)	6 痴呆	348 (6.7)
7 重症心身障害	148 (5.3)	7 感染症	328 (6.3)
8 肝・膵・胆のう疾患	133 (4.7)	8 腎疾患	259 (5.0)
9 感染症	132 (4.7)	9 糖尿病	258 (4.9)
10 脊髄損傷	122 (4.3)	10 肝・膵・胆のう疾患	132 (2.5)
その他	55 (2.0)	その他	59 (1.1)
計	2,809 (100.0)	計	5,217 (100.0)

＊回答は第一診断名，第二診断名，第三診断名の合計。

表7　状態（複数回答）

(%)

	ターミナル	遅延性意識障害（植物状態）	要全介助	要半介助	自　立	その他	無回答	総　数
全　体	499 (7.7)	509 (7.8)	2,461 (37.8)	1,973 (30.3)	1,368 (21.0)	15 (0.2)	58 (0.9)	6,517 (100.0)
処置なし	17 (1.0)	8 (0.5)	445 (27.5)	628 (38.8)	512 (31.6)	5 (0.3)	17 (1.0)	1,620 (100.0)
在宅療養可能	98 (3.0)	170 (5.2)	982 (30.2)	1,217 (37.4)	861 (26.5)	10 (0.3)	26 (0.8)	3,253 (100.0)

＊回答は複数回答（割合は，各群の総数に対するもの）。

管疾患」が1,318人（40.5％）と多いものの，どの診断名でも4割以上は在宅療養が可能であった（表6-1）。

「在宅療養が可能」な患者の「状態」（複数回答）では，「要半介助」が37.4％と最も多く，他に「遅延性意識障害（植物状態）」5.2％や「ターミナル」3.0％も含まれていた（表7）。

現在行われている「処置」数（複数回答）は，

表8　現在行われている主な処置（複数回答）

（%）

主な処置	在宅療養可能件数（A）	単独実施件数（B）	（A）かつ（B）	総件数
1 点滴・注射（化学療法，輸血を含む）	789 (44.6)	827 (46.8)	453 (25.6)	1,768 (36.1)
2 留置膀胱カテーテル装着・導尿	521 (33.5)	161 (10.4)	96 (6.2)	1,554 (31.7)
3 経管経腸栄養（胃瘻造設）	438 (39.4)	265 (23.8)	137 (12.3)	1,112 (22.7)
4 中心静脈栄養	242 (24.7)	158 (16.1)	56 (5.7)	981 (20.0)
5 褥創	288 (37.6)	98 (12.8)	63 (8.2)	765 (15.6)
6 リハビリテーション	435 (64.2)	507 (74.8)	337 (49.7)	678 (13.8)
7 酸素療法（気管切開以外）	190 (34.8)	92 (16.8)	71 (13.0)	546 (11.1)
8 気管切開	164 (31.4)	26 (5.0)	15 (2.9)	523 (10.7)
9 透析（CAPD）	130 (37.8)	235 (68.3)	98 (28.5)	344 (7.0)
10 酸素療法（気管切開）	65 (25.7)	15 (5.9)	10 (4.0)	253 (5.2)
11 人工呼吸器装着	42 (19.0)	4 (1.8)	1 (0.5)	221 (4.5)
12 人工肛門・人工膀胱	59 (48.0)	38 (30.9)	26 (21.1)	123 (2.5)
13 ドレーン類装着	31 (28.2)	18 (16.4)	11 (10.0)	110 (2.2)
14 吸引	18 (39.1)	1 (2.2)	1 (2.2)	46 (0.9)
15 ギプス固定など	19 (54.3)	29 (82.9)	16 (45.7)	35 (0.7)
16 ペインコントロール	11 (61.1)	5 (27.8)	3 (16.7)	18 (0.4)
17 放射線療法・照射	3 (20.0)	3 (20.0)	0 (0.0)	15 (0.3)
18 その他	40 (46.5)	30 (34.9)	15 (17.4)	86 (1.8)
計	3,485 (38.0)	2,512 (38.5)	1,409 (15.4)	9,178

＊「総件数」の割合は，「処置」が行われていた4,897人に対するもの。
＊「在宅療養可能件数」「単独実施件数」「（A）かつ（B）」の割合は，総件数に対するもの。

「在宅療養が可能」とされた患者1人当たり1.07種類に過ぎず，全体に比べ少なかった。また，件数の多い「処置」は「点滴・注射」「留置膀胱カテーテル装着・導尿」「経管経腸栄養」「リハビリテーション」などで，これらの「処置」が訪問看護などにより在宅で受けることが可能になれば，長期入院患者の在宅療養移行の可能性が広がるといえる（表8）。

「現在の入院理由」を見ると，「医学的管理の継続が必要」あるいは「身体的リハビリが必要」であるために「在宅療養が不可能」とされたのは，全長期入院患者の3割にあたる2,055人に過ぎなかった。つまり，その他の理由により「在宅療養が不可能」とされた893人と，「在宅療養が可

表9　現時点での入院理由

(%)

	医学的管理の継続が必要	身体的リハビリが必要	在宅へ移行調整中	転院，施設入所まち	ほかに病院・施設がない	本人の希望	家族の希望	通院困難	その他	無回答	計
0～14歳	79 (1.2)	6 (0.1)	7 (0.1)	3 (0.0)	16 (0.2)	3 (0.0)	5 (0.1)	0 (0.0)	7 (0.1)	0 (0.0)	126 (1.9)
15～64歳	791 (12.1)	291 (4.5)	209 (3.2)	102 (1.6)	144 (2.2)	126 (1.9)	63 (1.0)	51 (0.8)	76 (1.2)	13 (0.2)	1,866 (28.6)
65～74歳	721 (11.1)	208 (3.2)	206 (3.2)	137 (2.1)	100 (1.5)	153 (2.3)	47 (0.7)	56 (0.9)	4 (0.1)	13 (0.2)	1,645 (25.2)
75歳以上	1,093 (16.8)	303 (4.6)	304 (4.7)	359 (5.5)	222 (3.4)	269 (4.1)	155 (2.4)	129 (2.0)	4 (0.1)	28 (0.4)	2,866 (44.0)
不　明	4 (0.1)	1 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (0.2)
計	2,688 (41.2)	809 (12.4)	727 (11.2)	604 (9.3)	483 (7.4)	554 (8.5)	271 (4.2)	236 (3.6)	91 (1.4)	54 (0.8)	6,517 (100.0)

表10　処置の有無と在宅療養の可否から見た入院理由

(%)

		医学的管理の継続が必要	身体的リハビリが必要	本人の希望	在宅へ移行調整中	転院，施設入所まち	通院困難	ほかに病院・施設がない	家族の希望	その他	無回答	計
処　置	あ　り	2,458 (50.2)	461 (9.4)	336 (6.9)	500 (10.2)	387 (7.9)	204 (4.2)	358 (7.3)	154 (3.1)	10 (0.2)	29 (0.6)	4,897 (100.0)
	な　し	230 (14.2)	348 (21.5)	218 (13.5)	227 (14.0)	217 (13.4)	32 (2.0)	125 (7.7)	117 (7.2)	81 (5.0)	25 (1.5)	1,620 (100.0)
	計	2,688 (41.2)	809 (12.4)	554 (8.5)	727 (11.2)	604 (9.3)	236 (3.6)	483 (7.4)	271 (4.2)	91 (1.4)	54 (0.8)	6,517 (100.0)
在宅療養	可　能	733 (11.2)	574 (8.8)	443 (6.8)	673 (10.3)	298 (4.6)	126 (1.9)	216 (3.3)	156 (2.4)	9 (0.1)	25 (0.4)	3,253 (49.9)
	不可能	1,872 (28.7)	183 (2.8)	96 (1.5)	27 (0.4)	280 (4.3)	106 (1.6)	254 (3.9)	105 (1.6)	10 (0.2)	15 (0.2)	2,948 (45.2)
	無回答	83 (1.3)	52 (0.8)	15 (0.2)	27 (0.4)	26 (0.4)	4 (0.1)	13 (0.2)	10 (0.2)	72 (1.1)	14 (0.2)	316 (4.8)
	計	2,688 (41.2)	809 (12.4)	554 (8.5)	727 (11.2)	604 (9.3)	236 (3.6)	483 (7.4)	271 (4.2)	91 (1.4)	54 (0.8)	6,517 (100.0)

能」とされた3,253人は，ともに環境が整えられ　　(表10)。
れば在宅療養が可能となる道があると判断できる